

## 医療トピックス

### くすり一口メモ

## がん薬物療法の支持療法における自動車運転に関する添付文書上の記載の有無

医薬品を服用することにより、自動車の運転等危険を伴う作業に従事している最中に突発的睡眠等の副作用が発現し、事故を引き起こすおそれがある薬剤については、添付文書の使用上の注意の項に、「自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には十分注意させること」、あるいは「自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること」と記載されています。これらの薬剤を処方または調剤する際は、医師または薬剤師から患者に対する注意喚起の説明を徹底するよう厚生労働省から通知されています。また、薬物の影響により正常な運転が困難な状態で自動車を走行させ、人を負傷、あるいは死亡させた場合、運転者は「自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律」（法律第八十六号）により厳しく罰せられる可能性があります。本誌第53巻第7号では、添付文書に自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないことの注意喚起文が記載された薬剤について、薬効分類ごとにまとめて紹介しました。

表1 制吐薬の一覧と自動車の運転に関する添付文書上の記載の有無

分類	医薬品名	成分名	運転に関する記載事項
コルチコステロイド	デカドロン	デキサメタゾン	なし
5HT <sub>3</sub> 受容体拮抗薬	セロトーン	アザセトロン	なし
	シンセロン	インジセトロン	なし
	ゾフラン	オンダンセトロン	なし
	カイトリル	グラニセトロン	なし
	ナゼア	ラモセトロン	なし
NK <sub>1</sub> 受容体拮抗薬	イメンド	アプレピタント	なし
ドパミン受容体拮抗薬	ナウゼリン	ドンペリドン	注意
	プリンペラン	メトクロプラミド	禁止
ベンゾジアゼピン系抗不安薬	コンスタン	アルプラゾラム	禁止
	ワイパックス	ロラゼパム	禁止
フェノチアジン系抗精神病薬	コントミン	クロルプロマジン	禁止
	ノバミン	プロクロルペラジン	禁止
ブチロフェノン系抗精神病薬	セレネース	ハロペリドール	禁止
セロトニン・ドパミン遮断薬	リスパダール	リスベリドン	禁止
MARTA	ジプレキサ	オランザピン	禁止
プロピルアミン系抗ヒスタミン薬	ボララミン	クロルフェニラミン	禁止

運転に関する記載事項の補足（添付文書上での記載）

禁止：自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないよう注意すること

注意：自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には十分注意させること

表2 鎮痛補助薬の一覧と自動車の運転に関する添付文書上の記載の有無

分類	医薬品名	成分名	運転に関する記載事項
抗うつ薬	アモキサン	アモキサピン	禁止
	サインバルタ	デュロキセチン	禁止
	デプロメール ルボックス	フルボキサミン	禁止
	トリプタノール	アミトリプチリン	禁止
	ノリトレン	ノルトリプチリン	禁止
	パキシル	パロキセチン	注意
抗けいれん薬	アレビアチン	フェニトイン	禁止
	ガバベン	ガバペンチン	禁止
	デバケン	バルプロ酸	禁止
	リボトリール	クロナゼパム	禁止
	リリカ	プレガバリン	禁止
抗不整脈薬	メキシチール	メキシレチン	禁止
中枢性筋弛緩薬	ギャバロン	バクロフェン	禁止
コルチコステロイド	リンデロン	ベタメタゾン	なし
	デキサメタゾン	デカドロン	なし
ベンゾジアゼピン系抗不安薬	セルシン	ジアゼパム	禁止

運転に関する記載事項の補足（添付文書上での記載）

禁止：自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないよう注意すること

注意：自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には十分注意させること

今回は、がん薬物療法の支持療法として使用される薬剤の中でも処方頻度の高い制吐薬と鎮痛補助薬に焦点を絞り、添付文書上の自動車の運転に関する記載の有無をまとめました。制吐薬は催吐性リスクの高い薬剤にて誘発される悪心・嘔吐に対して、鎮痛補助薬はタキサン系薬やプラチナ系薬により惹起される末梢神経障害等に対して、それぞれ外来で処方されることも多い薬剤です。しかし、患者に自動車の運転を行わないよう説明しても、事実上運転をやめることが不可能な方もいます。運転が禁止されない薬剤の選択が必要となる場合に、今回作成した一覧が一助になれば幸いです。制吐薬一覧は制吐薬適正使用ガイドライン、鎮痛補助薬一覧はがん疼痛の薬物療法ガイドラインを基に作成しています。

### 【参考文献】

- ・平成25年5月29日，薬食総発0529第2号・薬食安発0529第2号，医薬品服用中の自動車運転等の禁止等に関する患者への説明について，厚生労働省医薬食品局総務課長・厚生労働省医薬食品局安全対策課長
- ・自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律，法律第八十六号
- ・制吐薬適正使用ガイドライン 第1版
- ・がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版

（鹿児島市医師会病院薬剤部 中島 誠）